



OKADAMA AIRPORT

# 丘珠空港の将来像(案)

～よりご理解していただくために～



札幌市

# はじめに

丘珠空港は、札幌市の中心部から北東に直線距離で約6kmと近距離に位置し、ビジネス利用・観光等による経済活性化への寄与や、防災・医療等を支える市民・道民の社会生活にとって重要な路線を有しており、幅広い役割を担う重要な施設です。

近年、丘珠空港を取り巻く環境は大きく変化してきています。例えば、航空機の技術革新による離着陸に必要な滑走路長の短縮化や、機材の大幅な騒音低減等が図られています。丘珠空港でもリージョナルジェット機<sup>※1</sup>による定期便運航(夏ダイヤのみ運航<sup>※2</sup>)が平成28年(2016年)から始まりました。また、北海道内7空港の運営の一括民間委託によって道内航空の新規需要創出が見込まれること、北海道新幹線札幌開業やJR北海道の事業範囲見直し等による道内における長距離移動手段のシフトといった大きな環境の変化も見込まれています。

こうした取り巻く環境の変化を受け、札幌市は平成28年(2016年)から丘珠空港の更なる利活用について検討を始め、これまで空港周辺地域住民との意見交換や市民1万人アンケート、市民や有識者で構成される札幌丘珠空港利活用検討委員会での議論など、様々な意見を伺いながら検討を進めてきました。

本資料は、これまでの検討や議論を踏まえ丘珠空港が進むべき方向性として取りまとめた「丘珠空港の将来像(案)」(以下、将来像(案)という。)を、空港周辺地域住民を含む市民の方へ情報提供することを目的としたものです。

札幌市・北海道にとって多くの役割を担っている丘珠空港が、空港周辺地域への影響に配慮しながら、近年の環境の変化に対応してその役割をより一層果たし、今後の札幌市の活力向上・北海道全体の発展につなげるため、将来像の実現に向けて取り組んでいきます。

※1 地域航空路線に対応した座席数が50~100席程度の小型ジェット旅客機。  
低燃費、低騒音であり、必要滑走路長が短いという特徴がある。

※2 豪雪地帯の札幌市に位置する丘珠空港において冬季もリージョナルジェット機が運航するには、現在の滑走路長(1,500m)では足りないため、夏ダイヤのみの運航となっている。

# 検討の経緯と今後の流れ

## 一 丘珠空港を取り巻く環境の変化

▶▶詳しくは10~12ページ

- 道内7空港の運営の一括民間委託
- 北海道新幹線札幌開業
- 航空機の低騒音化 等



環境の変化に対応しつつ、  
丘珠空港が担う重要な役割をより一層  
果たしていくため、在り方の再考が必要



平成28年(2016年)~令和3年(2021年)

## 一 丘珠空港の利活用検討

▶▶詳しくは6~7ページ

- 空港周辺地域住民との意見交換
- 市民1万人アンケート
- 札幌丘珠空港利活用検討委員会 等



これまでの検討や議論の取りまとめ



令和4年(2022年)

## 一 丘珠空港の将来像(案)

▶▶概要は2~3ページ、詳しくは13~19ページ

- 札幌市の活力向上、北海道全体の発展のための進むべき方向性として丘珠空港の将来像(案)を作成
- 札幌市と空港周辺地域住民を含む市民との共有事項とするため、パブリックコメントや空港周辺地域住民との意見交換会等を開催し、将来像を策定する予定



将来像策定後



## 一 将来像の実現に向けた今後の動き

▶▶詳しくは20ページ

- 必要となる空港機能が概ね10年後に整備されるよう国へ要望
- 実現に向けて関係機関・関係者と連携・協力して取り組む

# CONTENTS

丘珠空港の将来像(案)の概要  
..... P.02

1 丘珠空港の概要  
..... P.04

2 利活用検討の経緯  
..... P.06

3 丘珠空港の担う役割と  
取り巻く環境の変化  
..... P.08

4 丘珠空港の将来像  
..... P.13

5 将来像の実現に向けた  
今後の動き ..... P.20

6 航空機騒音について  
..... P.21

FAQ  
丘珠空港の将来像(案)  
などについての、  
ご質問にお答えします  
..... P.23



# 丘珠空港の将来像(案)の概要

## 丘珠空港の将来像

一年を通して道内外との路線を展開することにより、市民・道民の安全・安心な暮らしに寄与するとともに、多様な交流を支える広域交通拠点となる空港。

- ▶ 道内航空ネットワークの拠点空港として、医療・防災機能を高めるとともに、道内路線を維持拡大し、ビジネスや医療従事、通院等、社会生活にとって重要な路線として、市民・道民の利便性向上を図る。
- ▶ 一年を通して全国各地方との定期便の就航により、ビジネスや観光による交流人口を増やし、札幌・北海道の活力向上を図る。

## ■ 将来像実現に必要な取組

取組内容		現状	将来像
滑走路の延伸		1,500m	1,800m程度 (300m程度の延伸)
空港運用時間の拡大		7:30~20:30	7:00~21:00 (1時間程度の拡大)
路線の拡充	路線数	道内 5路線(通年) 道外 3路線(うち2路線は夏ダイヤのみ)	道内 6路線程度(通年) 道外 10路線程度(通年)
	便数	1日当り 30便程度 (15往復)	1日当り 70便程度 (35往復)
	旅客数	約27万人 (2019年度)	100万人程度
ターミナル機能の強化		<ul style="list-style-type: none"> <li>空港ターミナルビル: 平成4年(1992年)開業 (年間旅客数38万5千人想定)</li> <li>駐機場:中型機用5スポット</li> <li>搭乗橋:無し</li> <li>商業施設:レストラン・売店</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>≫ 空港ターミナルビルの拡張</li> <li>≫ 駐機場の増設</li> <li>≫ 搭乗橋の設置</li> <li>≫ 新たな事業者の格納庫の設置</li> <li>≫ 商業施設等の拡充</li> </ul>
空港アクセスの充実		<ul style="list-style-type: none"> <li>札幌都心部からの空港連絡バスが 積雪期以外(概ね3月末から11月末) で運行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>≫ 札幌都心部からの 空港連絡バスの通年運行</li> <li>≫ 空港駐車場の拡張</li> </ul>
医療・防災機能の強化		<ul style="list-style-type: none"> <li>医療ジェット(メディカルウイング): 降雪期以外での運用</li> <li>札幌市消防航空隊:石狩市に拠点</li> <li>備蓄庫:無し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>≫ メディカルウイング※1の通年運用</li> <li>≫ 札幌市消防航空隊※2の 丘珠空港への拠点化</li> <li>≫ 備蓄庫の設置等</li> </ul>
周辺地域との調和と共生		<ul style="list-style-type: none"> <li>空港ターミナルビルでの 市民参加のイベント開催など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>≫ 空港周辺の賑わい創出や環境への 配慮等について地域住民と協議</li> </ul>

※1 地域の医療機関では提供できない高度・専門的医療を必要とする患者を、高度・専門医療機関へ計画的に搬送する固定翼機。(詳しくは9ページを参照)

※2 林野火災における空中消火、高層建物火災における屋上からの救出、重傷者の搬送、山岳地での捜索・救助活動等を行う。平成20年(2008年)まで丘珠空港を拠点に活動してきたが、消防航空体制をさらに強化するためにヘリを2機体制とした際、丘珠空港の用地制約等により現在の石狩ヘリポートに移転。

# (詳しくは13～19ページ)

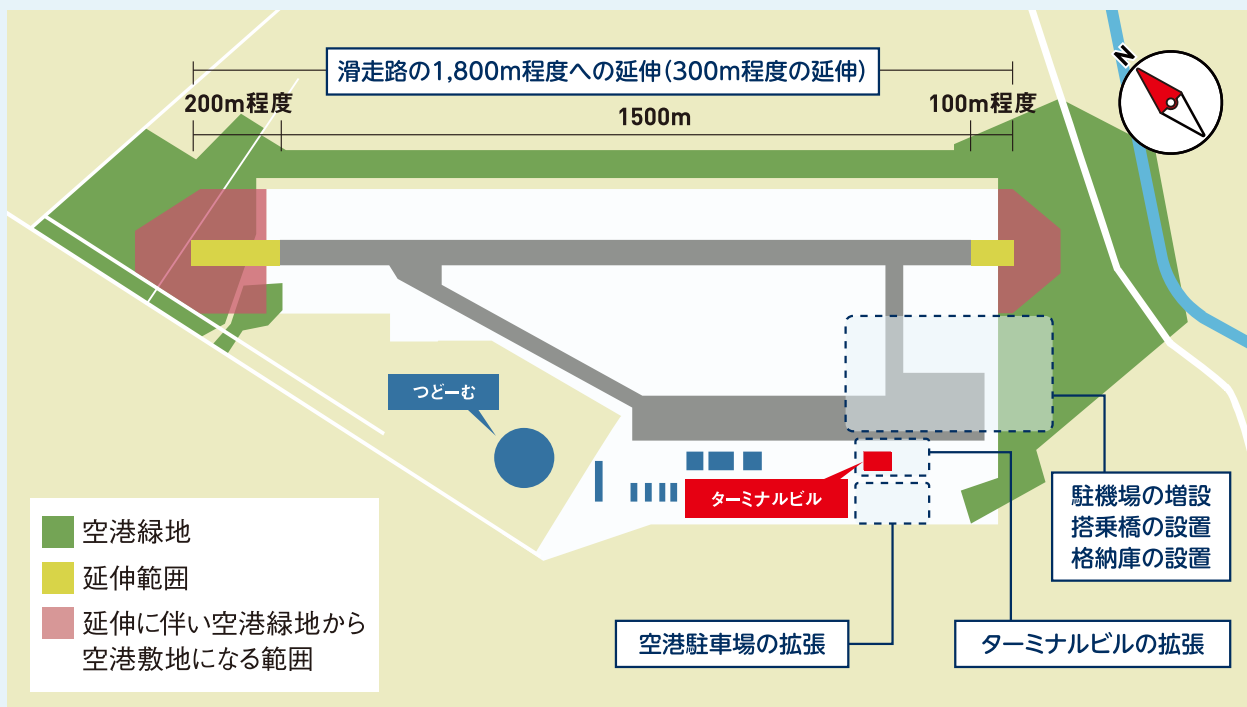
## ■ 空港と周辺地域の共生に関する基本方針

- ▶ 毎年騒音調査を行いながら、必要に応じて空港管理者や航空会社といった関係機関と協議・調整する等、運航便数等について環境基準を超えない範囲での運用<sup>※3</sup>となるよう取り組んでいく。  
※3 札幌市での試算では、国が規定する航空機騒音の環境基準の範囲内で72便/日程度の運航が可能となることを想定。
- ▶ 空港と周辺地域の共生を図るため、地域住民と協議しながら、空港周辺の賑わいの創出等に取り組んでいく。

## ■ 取組期間

概ね10年後を目途に、将来像の実現に資する機能を有する空港となることを目標とします。さらに、空港機能を最大限発揮できるよう、10年後以降も、その時点での社会情勢に適応した丘珠空港の在り方の検討を続け、必要に応じ柔軟に取り組んでいきます。

## ■ 主な整備イメージ ※札幌市の想定



## ■ 概算事業費 ※札幌市の試算

これはあくまで市の概略検討によって想定した施設整備について、その概算費用を算出した参考値であり、今後変動する可能性があります。

### □ 空港整備事業費

滑走路300m延伸、駐機場増設、用地費等

**150～200億円**

(上記のうち地方負担(15%):23～30億円)

### □ その他施設整備事業費

ターミナルビル、搭乗橋、立体駐車場、格納庫

**100～150億円**